

# 全難聴女性部だより 第31号

平成26年1月15日発行 発行人:永末淑子 編集:事務局



謹んで新春のお慶びを申し上げます。

女性部長 永末 淑子

皆様には、お健やかに新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。皆様のご健康と、幸多き一年でありますようお祈り申し上げます。

女性部の皆様には、日頃から温かいご支援とご協力を賜りまして、深く感謝し心より厚くお礼申し上げます。

さて、去年は、世界各地で異常気象のために、竜巻や豪雨による大災害が発生して、多くの被害者が出て、心が痛みました。明るいニュースでは、2020年に東京オリンピック、パラリンピックの開催決定や、富士山の世界遺産登録などもあり、大きい喜びや嬉しいこともありました。力を合わせて人と人が手を結ぶと、一日も早い災害からの復興支援の輪も広がることになることを、祈っています。また、昨年6月には「障害者差別解消法」が成立しました。「障害を理由とする差別の解消を推進し、障害のある人もない人も等しく人格を尊重しあいながら、共生する社会の実現を目的とする」とするものです。

- ・難聴である知人が苦勞の末、介護士の資格を取りましたが、10回に及ぶ面接でも断られてしまいました。
- ・車椅子を利用している身体障害者の知人が、車椅子対応のバスに乗ろうとしましたが、満員を理由に乗せて貰えませんでした。乗客が少しずつ詰めれば、乗れたそうです。毎日の生活の中で身のまわりには、障害があるため差別を受けていることが沢山あります。福祉、雇用、教育、医療、行政、交通機関他、社会生活のなかで、障害があるために差別を受けることを、女性部全体でも一緒に考え、社会に意見を出しましょう。

本年も、女性部の向上のために皆様と一緒に支え合って行きましょう。ご協力をどうぞよろしくお願い致します。

# ～各ブロック「女性の集い」開催報告～

## ★関東ブロック

- ・期 日： 平成25年10月5日（土）～6日（日）
- ・会 場： 長岡震災アーカイブセンター「きおくみらい」
- ・テーマ： 「災害から身を守るために～中越地震に学ぶ」

### ～参加者の感想から～

#### 「新潟県中越地震の被害と復興を知る旅」に参加して

去る、10月5日～6日全難聴関東ブロック女性部一泊研修会「新潟の集い」に参加してきました。主管は昨年度20周年を迎えた新潟県難聴者協会です。私が女性一泊研修会に参加したのは今回で2回目、新潟中越地震の被災地「山古志村」の復興の様子が見学できるという事で私は申込みしました。茨城県の難聴者協会からの参加は4名で東京駅に3名が集合し、ほかに大宮からの2名と合流して5名で長岡を目指しました。新幹線は「MAXとき315号」。6列の座席はゆったりとしていて、また、2階席に座ることが出来たので、車窓からの眺めも良く、5人のおしゃべりも弾みました。東京を出る時は大雨でしたが、この日の長岡は曇りで傘を使うことはありませんでした。

長岡駅で道案内の方に迎えられ、駅で名物の「へぎそば」をいただきました。海藻の入ったのだし越しの良いおそばでした。この日は「米百俵祭り」の最中で長岡駅から会場までのメイン道路は人で一杯でした。今回の会場「長岡震災アーカイブセンター・きおくみらい」は、中越メモリアル回廊の中核施設で、新潟県中越大地震の記憶、記録、教訓を未来に役立てるための施設で、先進のIT技術を利用しての情報検索、災害や防災に関する図書スペース、震災の記録などを試聴できるシアターなど、災害や防災に関する様々な情報を入手することが出来る立派な施設でした。

今回の研修会テーマは「防災から身を守るために～中越地震に学ぶ～」で、第一部では中越防災フロンティア相談役の青木勝氏の講演で「中越地震から復興までの道のり」というお話で、山古志村の特性「棚田」「雪」「錦鯉」「闘牛」「中山隧道」などの紹介と、地震による被害状況の映像、そして、復興に向けて、1500年もの歴史がある山の暮らしの再生のお話、そして、「山古志へ帰ろう」を合言葉に、この復興の道のりを山古志のメモリアル回廊として残していくという計画など大変分かりやすく参考になるお話でした。

次に、ワークショップとして「どうする？あなたの地域の防災力向上」と題して、新潟県出身で中越防災フロンティア事務局長の木村浩和氏の講演がありました。その中で特に分かったことは、中越大震災という甚大な地震にも関わらず山古志村では死者少数で済んだ、その理由は村民の助け合い、近隣同士の繋がり**の強さ**というものが大きかったという話に驚きました。東京や大都市では近所の付き合いもあまりなく、隣近所の家族構成や家の作りなども勿論わからず、助け合うという事がままならない状況だと思うのですが、この山古志村では、家屋の倒壊などがあっても、公的な救済を待たずに自分たちで重機を用いて、家のどこに家人が寝ているかもわかり、助けることが出来たということが多かったようです。

中越地震で山古志村は集落外に繋がるすべての道が崖崩れなどによって寸断され

てしまいますが、震災の翌日には村民自らが、重機を使って道を切り開き始めたというお話もありました。村民の温かい繋がりにとても感服しました。次に長岡市出身で雪氷工学博士でもある中越防災推進機構防災力センター長の諸橋和行氏のワークショップがありました。ワークショップでは、今、震度6の地震が発生したら、①不安なことは？②不安を減らす解決方法で何から着手できそうか？などで、解決方法の難易度を決めてすぐ解決できることから始めよう！という地震に対応する力を作るというワークショップでした。今すぐできることの第一位は、家具の固定や、非常袋を用意するなどがあげられました。私も出来るだけ早く準備したいと思いません。

木村浩和さんの「防災教育への取り組み」の話の中で、東日本大震災では、宮城釜石市の児童生徒約3000人が自らの判断で、幼児、老人らも誘導して無事に避難できたという「釜石の奇跡」の話がありました。釜石市では2005年から地震一津波一避難という防災教育があり、「津波が起きたら人に構わず逃げるんだ」「自分の命は自分で守れ」「自分の命があつてこそ他人を助けられる」と教えてきたそうで、それが生かされ、子供たちは自ら安全な所へ避難できたそうです。これから、東京でも大地震の不安がありますので私も是非教訓にしたいと思えます。

貴重な話の後は、お待ちかねの懇親会で「花の宿・よもやま館」大宴会場での楽しいひと時でした。アトラクションは、茨城難聴会員も含む有志による手話ダンスと役員の方々の手話の歌、また、「よもやま館」おかみさんによる演舞を拝見しました。よもやま館のおもてなしがとても良かったです。もちろん料理もとても美味しかったですね。是非また利用したいと思えます。

翌日は朝から晴天で雲一つない天気でした。観光は大型バスに乗って、山古志村に入り、最初に被害状況や復興の様子をまとめたビデオを拝見し、それから、村のあちこちに残っている震災の現況を見たり、説明を受けたりしました。山古志村は本当に山と谷に囲まれていて、くねくねとした道が多く、寸断された道を直したりダムを直したり、ダムに沈んでいる集落も拝見しました。震災後に新しくできたトンネルもありました。私たちは村民が手作りしたトンネルを見学しました。復興事業の一つにアルパカ牧場ができ、闘牛「角突き」も再開され、錦鯉の養殖も各所で始まっていました。映画「子犬とマリの物語」の原作の家も拝見しました。最後の作り酒屋「お福酒造」では、築300年という立派なお家で休憩させてもらい、その家での、震災の様子や、修復の状況などのお話もお聞きしました。お土産に「お福酒造」の清酒を買って帰りました。今回の「新潟の集い」は大変内容の濃い充実した研修会でした。新潟県協会のおもてなしに感激した2日間でした。

(茨城県中途失聴・難聴者協会：高橋はるみ)



(ダムに沈んだ家)



(山古志の闘牛)



(アルパカ牧場)

## ・その2

10月5日6日女性部一泊研修会がありました。

《1日目》 5日は長岡震災防災アーカイブセンター「きおくみらい」で「災害から身を守るために～中越地震に学ぶ」をテーマに講演。講師は「中越防災フロンティア」の青木勝氏。そして、ワークショップ「どうする？あなたの地域の防災力向上」を事務局の木村浩和氏と、防災力センター長の諸橋氏のお二人が熱弁をふるった。これを聞いて今後地域の防災訓練には積極的にしなくては、と強く思った。

予定の時間もあっという間に過ぎ、これから宿泊地、長岡蓬平温泉「よもやま館」へ、バスで出発。懇親会での料理とお酒を楽しみにバスに乗り込んだ。宿に着いてからのお茶がおいしかったこと。そして何よりもごはんの美味しさ、米どころ新潟をアピール出来たのではないのでしょうか。よもやま館「花舞台」で女将さんによる舞踊も見せて頂いた。

《2日目》 6日は観光です。中越地震で大きな被災にあった山古志巡り。観光バスに乗って山道、カーブもあり、車中からの見学もあり、ここでも要約筆記のお蔭で大助かりです。中山遂道（手掘り）は初めて入ってみたが奥に行くにしたがって真っ暗。ケータイの明かりをたよりにそれでも暗いがけっこう歩いて途中で引き返すことに。向こうの出口まで行きたかったなナ～、残念。郷見庵で水没家屋見学。そこから天空の郷、池谷闘牛場へ。ここではとびきりのサービスで闘牛と直接触れ合うことができた。こんなことは最初で最後かなと思うほどの感激です。おっかなびっくり触ってみて毛がかたい？柔らかい？人それぞれの感じ方でした。大きい牛は小さい牛をいじめないそうです。角突きの練習の様子を見てほほえましい光景にうっとりしました。

昼食に山古志弁当を頂き、その後アルパカ牧場へ。アルパカに初めて餌付けしてみた。エサに夢中になり器ごとくわえているアルパカもいて「バカ」と言われアルパカもびっくり、まわりは大笑い。動物好きにはたまりません。

最後のお楽しみ、お福酒造見学です。敷地内にあるかやぶき屋根の家で震災当時の話を聞きながら一服させて頂いた。この家屋は築300年で当時の宮大工が建てたものだが、中越地震で被災したため修復、今に至っている。お酒の試飲に人気があり飲んでみた。味の区別はあまりつかないがどれも美味しい。「金賞」受賞のお福正宗を土産に帰路についた。この日は季節はずれの暑い一日であったが無事にゴールできました。要約者も含めて大型観光バスが満席になるほどの盛況でした。

県外からの参加の皆様、お疲れ様でした。長岡要約筆記サークルの皆様、大変お世話になり、ありがとうございました。（新潟県中途失聴・難聴者協会：土田洋子）



(山古志弁当)



(山古志の棚田)



(金賞のお福酒造)

## ★九州ブロック

- ・期 日：平成 25 年 10 月 19 日（土）
- ・会 場：福岡市民福祉プラザ 502 研修室
- ・テーマ：「交流を深め、友達の輪をひろげよう」

### 「九州ブロックの女性の集いに参加して」

第1回、全難聴女性部九州ブロック「女性の集い」が福岡にて、開催されました。第1回という事で、「交流を深めて、友達の輪を広げよう」というテーマに頼もしい未来を感じて協会の皆にも呼びかけ鹿児島からは3名参加しました。講演は「リフレッシュ たまたま箱」でしたので、この演題にも興味深々でした。早速、池田サカエ先生の講演が始まりました。沢山の資格を持って活躍をしておられる先生でしたが、その元気なことといったら、圧倒されそうでした。お手玉遊びについて、あらゆる分野で効果がある話でした。お手玉の目的、特徴、効果など詳しく説明されました。（紙面の都合で割愛）実行委員の皆さんが用意して下さったお手玉で、楽しい遊びを色々して時の立つのも忘れませんでした。2個のお手玉で、ゲームもできれば、歌も歌って体も脳もリフレッシュした一時でした。

お昼はお弁当を戴きながら、同じテーブルの方々と話が弾みました。やっぱり同僚者はいいなと思いました。自己紹介があり、皆さんの話が聞けて楽しかったです。

また、手話劇「ねずみの嫁入り」もとても面白く楽しく見ました。皆さんの手話と表現が分かりやすいでした。参加者が喜ぶ企画が盛り沢山でした。10月19日の集いでしたが、その後すぐに報告集が送られてきて、その速さにびっくりしました。実行委員の方々のチームワーク、企画力に感動しました。大変満足な女性の集いでした。最高のおもてなしをありがとうございました。



福岡は不慣れな鹿児島県民でしたが、博多駅のホテルに一泊して、あくる日にちょっと観光しようと思っていました。何もわからない私達でしたが、帰り道一緒になった豊重さんが、地下鉄の乗り方、ホテルまで案内、そして、明るく日の観光(オープントップバス)の予約まで至れり尽くせりの対応をして下さいました。ほとんど聞こえない3人の聴覚障害者でしたが、親切な方々との出会いで、楽しい福岡を満喫することが出来ました。福岡の協会の女性の皆さんありがとうございました。また行きたいと思いました。  
(鹿児島県中途失聴者・難聴者協会・会長：奥吉 順子)

### ・その2

10月19日（土）第1回九州ブロック女性の集い「交流を深め友達の輪を広げよう」をテーマに、ふくふくプラザにて開催されました。この大会にあたって未経験揃いの実行委員達が委員長のアドバイスを受けながら皆で協力し合い、この大会で同じ障害で悩んでいる人達が友達となり、自分たちの置かれた状況の辛さを分かち合い、支え合い、心が癒されて、一歩前に進んで行ける。そして、私たちが何を必要としているのかを考えるという目的で準備してきました。

当日の会場には、懐かしい顔ぶれや初めての方々の参加もありました。池田サカエ先生の講演の中で、お手玉遊びがストレスによる心と体の治療に効果をもたらしていることや脳の活性化、体力づくりに役立つことを話されていました。そして、先生の指導で、みんなでお手玉にチャレンジして、いい運動になりました。私は後々まで筋肉痛に悩まされましたが余興では、手話劇「ねずみの嫁入り」や1分間のスピーチの自己紹介やゲームで等で盛り上がり皆さんの熱気で会場内が暑くなってエアコンを最強にしても効かないなどハプニングもありました。大会が終わった後、参加者の方々から「楽しかったです・又、参加したいです・すごく良かったよ・色々お話できて嬉しかったです・元気を貰えました・来年もまた会いましょう・本当に素晴らしかった・」などの嬉しい言葉をかけて頂きました。私達仲間が力を合わせれば出来るんだと実感した大会でした。

(福岡中失難聴者支援福祉協会：中川原 由美)



～フェーヌカジにのせて、めんそーれ～

## 第19回全国中途失聴・難聴者福祉大会沖縄の報告から～

新年1月末に、舞台は最南端沖縄県、男女共同参画センター「ているる」で第19回中途失聴・難聴者福祉大会が開催され、200名締め切りの内、197名が参加しました。沖縄の空港に降りたらフェーヌカジが吹いて4月の陽気を感じさすが沖縄。

今回は第3分科会を担当した沖縄実行委員の女性部が2名と少なかったため、全難聴女性部役員が共に協力という形で実施しました。

テーマは「沖縄の歴史とおばあに学ぶ長生きの秘訣」でした。沖縄では唯一の激しい地上戦があり、一般市民を含めた23万人の戦死者を出したそうです。激動の時代を生き抜いた、沖縄女性の深い想い、悲しみや戦禍の体験を伝えようと、日本中を駆け回ってコンサートや講演している沖縄在住の道産子歌手：会沢芽美（あいざわ めみ）さんを講師に迎え、沖縄で起きた戦禍で自分の命より大切なわが子を捨て、子を守られなかった母親を1人芝居で熱演していただきました。その過酷な状況に会場から、ハンカチを出して涙ぐむ人もおり、沖縄の悲惨さを改めて身に沁み声になりませんでした。会沢さんは音楽大卒で、歌手でもあり、1人芝居の傍ら、手話ソングも披露されましたが沖縄人でない私たちには沖縄方言の歌は難しかったです。戦争体験証言朗読場面はとても胸を打つものでした。この戦争を知らない若い世代に沖縄戦の悲しみを語り継いでいかねばならない義務が、そして、この貴重な話をフェーヌカジに乗せて全国に届けるべきと思いました。沖縄の痛みは日本中の痛みでもあります。



分科会終了近くの時間で、講師の指導により皆さんと一緒に「安里屋ユンタ・遊び庭」などを踊りました。テンポがやさしく踊りやすか

ったです。参加者も83名で他の分科会よりも多くて盛会で良かったと思います。翌日の全体会発表では伊藤さんの報告を参加者が真摯に耳を傾けて聞いていました。最後の纏めで高岡理事長からは、戦禍にもまれたおばあちゃんの逞しく生きる姿の話に共鳴を受けたと、お褒めの言葉を頂きました。質疑応答でも、逞しく生きるおばあちゃんに見習って長生きしようという方もいました。懇親会では紅型の衣装を身に着け、分科会で習った踊りを会沢講師と共に披露し喝采を浴びました。式典では多数の応募の中から選ばれた全難聴のロゴマークが皆さんに披露されました。沖縄には初参加の方も多く、遠路から女性部分科会にご参加いただいた皆様方ありがとうございました。

(写真は全難聴のロゴマークです)

### ～沖縄大会参加者の感想から～



1月25日、26日に開催された「第19回中途失聴・難聴者福祉大会 in 沖縄」に参加しました。せっかく沖縄まで行くのだからと、前日の金曜日に行きました。まずは「首里城」へ。ゆいレールに初乗りです。大阪を出た時は大変寒かったのに、沖縄は何と暑い事でしょう。セーター一枚で大丈夫。広いお城を汗をふきふき見て回りました。

分科会は「沖縄の歴史とおばあちゃんに学ぶ長生きの秘訣」に参加しました。講師の会沢芽美さんは北海道の出身で、ご主人の転勤についてきて、今に至っているとのこと。年百回以上もコンサートなどで日本中を回っているそうです。蛇味線を手は何曲も歌ってくださっても、中途失聴者の私には聴こえない。あ～悲しい。オペラもやっていたそうだから、きっと良い声なんだろうね。聞きたかったなあ。戦争をテーマの「一人芝居」もありました。重いテーマで見るのも辛い、やるのも辛い。戦争になれば障害者は一番に排除されるんでしょうね。基地問題にしても、沖縄にいらぬものは日本中にいらぬとのこと、納得です。

最後に「安里屋ユンタ」の踊りを教えて貰いみんなで盛り上がり終了しました。夜の懇親会でその成果を舞台の上で発表しました。といっても、私の場合は見よう見まねでしたが。記念講演は岡島弁護士のお話アトラクションの「琉球豊太鼓」。充実した大会でした。来年度は三重県で開催されます。今から楽しみにしております。

(大阪府：黒瀬由紀子)



(懇親会での踊り)

### ◆観光見て歩き◆

私は観光の申し込みが漏れていたもので、皆とは別のコースになり、南部戦跡めぐりと玉泉洞コースでした。何と一緒になったのは高岡理事長さん。このコースは一般者10名と難聴者4人だけでした。まず、旧海軍司令壕に行き、迷路のように掘られた壕を見ましたが、最後まで戦って壕の中で自決した凄惨な場所も。よくもまあ、こんなに掘って・・・。入口に資料館があり、戦禍の状況を白黒の写真から、逃げ遅れた老婆が射殺されて道路に捨てられ、足首の怪我から大量のウジが湧いていた人、助かった子供や大人は米軍から食べ物を貰っている様子や、夜は「杖をついて歩け、死体の上を踏んで歩かないように・・・」と張り出された紙があり当時の悲惨さを見

て胸が痛くなりました。次に沖縄平和祈念堂へ、そこには「平和の礎」があり、国籍、非軍人問わず沖縄戦で亡くなられたすべての人々の氏名が刻まれていた。毎年、6月23日は沖縄戦没者慰霊が行われ、この日は小学校もお休みになる。最大の激戦地「摩文仁の地」は、眼下が広い海で、海辺に打ち寄せる白い波が何事も無かったかのように静かでした。街に戻って、沖縄のシーザーは沖縄の魔除けの置物で、この謂れが、番で口を開けているのがオスで、悪魔が来ないようにと、方や口を閉じているのはメスで、幸せが逃げないようにとガイドさんの話。私は初めて知った単なる置物と思っていたから。よく見ると屋根にいるのは殆どがオスでした。なるほど……。最後の観光地の琉球王国で他のコースの人とバッタリ。店内散策していると、ハブ酒の試飲があり勧められ飲んでみたが飲みにくいことはなく誰でも飲める味でした。(買って帰れば良かったかな? 何て) こうして見たことの無い新発見の観光ができて良かった。Aコースに行った方は、美ら海水族館で巨大なジンベイザメに驚嘆したと思う。沖縄は青い空、美しい海が大人気、夏に再び行きたいなと思いつつ……。沖縄の皆さん、色々とお世話とサーターアンダーギー(揚げまるパン)をニフェデービル。(事務局:有延)



(オスのシーザー)

## ◆事務局から

### 《26年度の「女性部の集い」おしらせ》

#### ❖近畿ブロック

- ・日 時：平成26年6月8日(日)～9日(月)
- ・会 場：ホテル日航奈良
- ・テーマ：「奈良を丸ごと体験—近畿ブロック女性部の集い」
- ・実行委員長：藤岡 央子
- ・観 光：「東大寺コース」又は「ならまちコース」
- ・主 管：奈良県中途失聴・難聴者協会 女性部



#### ❖東海ブロック

- ・日 時：平成26年7月12日(土) 10:30～15:30
- ・場 所：岐阜市民福祉活動センター 大会議室(2階)
- ・テーマ：「自分でとりくむ健康づくり」

～頭と身体を使って、楽しさ・遊び・笑顔で健康に～(仮題)

- ・講 師：渡辺 丈展先生 (特非) 岐阜県レクリエーション協会 会長

★26年度の役員会・県部長会議・第25回全難聴女性部総会は7月5日(土)に山口県で開催しますので、多数のご参加をお待ちしております。

#### ◆お悔み

千葉県の前部長 行末とよ子さんが1月に永眠されました。謹んでお悔やみを申し上げます。

◆26年度の第20回全国中途失聴・難聴者福祉大会の舞台は東海の三重県です。

今回は女性部バザーを実施します。詳細はだより8月号でお知らせします。

今回、「だより」新年号は沖縄大会掲載の為、1ヶ月遅れましたことをお詫びいたします。本年もよろしくお願ひ致します。